

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成31年2月14日

【四半期会計期間】 第64期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 カワセコンピュータサプライ株式会社

【英訳名】 KAWASE COMPUTER SUPPLIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川瀬 康平

【本店の所在の場所】 大阪府中央区今橋二丁目4番10号 大広今橋ビル

【電話番号】 06(6222)7474

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 糸川 克秀
兼最高財務責任者

【最寄りの連絡場所】 大阪府中央区今橋二丁目4番10号 大広今橋ビル

【電話番号】 06(6222)7474

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 糸川 克秀
兼最高財務責任者

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

カワセコンピュータサプライ株式会社東京支店

(東京都中央区銀座六丁目16番12号丸高ビル4階)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第63期 第3四半期累計期間	第64期 第3四半期累計期間	第63期
会計期間		自 平成29年 4月1日 至 平成29年 12月31日	自 平成30年 4月1日 至 平成30年 12月31日	自 平成29年 4月1日 至 平成30年 3月31日
売上高	(千円)	2,216,077	2,121,597	3,010,401
経常利益又は経常損失()	(千円)	8,388	32,674	22,525
当期純利益又は四半期純損失()	(千円)	15,630	46,984	6,646
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	1,226,650	1,226,650	1,226,650
発行済株式総数	(株)	5,160,000	5,160,000	5,160,000
純資産額	(千円)	3,297,244	3,198,050	3,311,757
総資産額	(千円)	4,057,709	3,960,533	4,221,694
1株当たり当期純利益金額又は四半期純損失金額()	(円)	3.30	9.93	1.41
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			10.00
自己資本比率	(%)	81.3	80.7	78.4

回次		第63期 第3四半期 会計期間	第64期 第3四半期 会計期間
会計期間		自 平成29年 10月1日 至 平成29年 12月31日	自 平成30年 10月1日 至 平成30年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	(円)	3.24	1.67

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結経営指標等の推移については記載していません。
- 2 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益については、記載していません。
- 3 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、相次ぐ自然災害により一時的な下押し圧力が加かったことはありましたが、その反動から再び増加に転じ緩やかな拡大を続けています。先行きについても米中間の貿易摩擦を始め、最近の保護主義的な動きや、英国のEU離脱問題、中東を始めとする各種地政学的リスクなど不安要素はあるものの、緩やかな拡大が続くと思われまます。

ビジネスフォーム業界におきましては、電子帳票などのIT導入、法制度改革によるペーパーレス化など需要減少に伴う価格競争に加え、人件費や物流経費の増大など厳しい環境が続いております。

このような情勢の中で、営業部門におきましては、金融機関、自治体及び通販業界を中心にBPO案件の獲得を目指した提案営業活動、及び既存先への新部署開拓と取引深耕活動に注力してまいりました。

生産部門におきましては、品質の維持向上や製造コストの圧縮を図るための作業効率の向上や仕損品の削減、加工外注の内製化などに取り組んでまいりました。

その結果、売上高は2,121百万円（前年同期は2,216百万円）、経常損失は32百万円（前年同期は8百万円の経常損失）、四半期純損失は46百万円（前年同期は15百万円の四半期純損失）となりました。

（ビジネスフォーム事業）

企業のコスト見直しによる需要の減少、価格競争激化の影響があったものの、既存取引先における新規案件の獲得があったことから売上高は前年同期と比べ、81百万円増加の1,449百万円（前年同期は1,368百万円）となりましたが、物流コスト、副資材等の高騰を補う事が出来ずセグメント利益は前年同期と比べ、1百万円減少し、183百万円（前年同期は185百万円）となりました。

（情報処理事業）

金融並びに通販関連の総需要量の減少並びに電子化の進行の影響は大きく、新規案件獲得等に幅広く活動しましたが、売上高は前年同期と比べ175百万円減少し672百万円（前年同期は847百万円）となりました。セグメント利益は内製化に取組み利益減少を抑制したこともあり、前年同期と比べ14百万円減少し51百万円（前年同期は65百万円）となりました。

財政状態の状況

（資産の部）

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末と比べ196百万円減少し、2,352百万円となりました。これは主に「受取手形及び売掛金」が51百万円、「商品及び製品」が13百万円、「その他」に含まれる「前払費用」が9百万円それぞれ増加し、「現金及び預金」が227百万円、「その他」に含まれる「未収入金」が42百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は前事業年度末と比べ64百万円減少し、1,607百万円となりました。これは主に「無形固定資産」に含まれる「ソフトウェア仮勘定」が13百万円、「投資その他の資産」に含まれる「保険積立金」が29百万円それぞれ増加し、「投資その他の資産」に含まれる「投資有価証券」が24百万円、「敷金及び保証金」が27百万円、減価償却等の影響により「有形固定資産」が52百万円それぞれ減少したことによるものです。

(負債の部)

流動負債は前事業年度末と比べ135百万円減少し、617百万円となりました。これは主に「買掛金」が67百万円、「短期借入金」が30百万円、「賞与引当金」が11百万円、「その他」に含まれる「未払金」が17百万円、「未払消費税等」が5百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債は前事業年度末と比べ11百万円減少し、144百万円となりました。これは主に「役員退職慰労引当金」が5百万円増加し、「長期借入金」が4百万円、「その他」に含まれる「リース債務」が6百万円、「繰延税金負債」が5百万円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産の部)

純資産の部は前事業年度末と比べ113百万円減少し、3,198百万円となりました。これは主に「利益剰余金」が94百万円、「その他有価証券評価差額金」が19百万円それぞれ減少したことによるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、経営方針・経営戦略等に重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は3百万円であります。

(6) 従業員数

当第3四半期累計期間において、従業員数の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第3四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等を行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,640,000
計	20,640,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,160,000	5,160,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株であります。
計	5,160,000	5,160,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年12月31日		5,160,000		1,226,650		1,171,200

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 429,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,729,500	47,295	
単元未満株式	普通株式 1,400		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,160,000		
総株主の議決権		47,295	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式11株が含まれております。
- 3 当第3四半期会計期間末の当社所有自己株式は429,111株であります。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) カワセコンピュータ サプライ株式会社	大阪市中央区今橋 2 4 10 大広今橋ビル	429,100		429,100	8.31
計		429,100		429,100	8.31

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までにおける役職の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,920,754	1,693,117
受取手形及び売掛金	490,216	541,434
商品及び製品	26,313	39,800
仕掛品	9,439	8,555
原材料及び貯蔵品	28,199	28,267
その他	74,831	41,792
貸倒引当金	49	55
流動資産合計	2,549,704	2,352,912
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	279,635	261,479
土地	518,685	518,685
その他(純額)	244,844	210,857
有形固定資産合計	1,043,165	991,022
無形固定資産	30,116	40,667
投資その他の資産	1 598,707	1 575,929
固定資産合計	1,671,989	1,607,620
資産合計	4,221,694	3,960,533
負債の部		
流動負債		
買掛金	179,709	111,948
短期借入金	406,640	376,640
未払法人税等	11,930	11,694
賞与引当金	26,358	14,735
その他	128,813	102,749
流動負債合計	753,451	617,768
固定負債		
長期借入金	6,720	1,740
退職給付引当金	46,806	47,140
役員退職慰労引当金	62,754	68,271
その他	40,204	27,562
固定負債合計	156,485	144,714
負債合計	909,936	762,482
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,226,650	1,226,650
資本剰余金	1,172,655	1,172,655
利益剰余金	987,415	893,121
自己株式	105,338	105,338
株主資本合計	3,281,382	3,187,088
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,374	10,962
評価・換算差額等合計	30,374	10,962
純資産合計	3,311,757	3,198,050
負債純資産合計	4,221,694	3,960,533

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	2,216,077	2,121,597
売上原価	1,639,264	1,551,084
売上総利益	576,812	570,513
販売費及び一般管理費	601,051	612,811
営業損失()	24,238	42,297
営業外収益		
受取利息	1,069	1,139
受取配当金	4,225	4,368
作業くず売却益	3,948	3,781
為替差益	49	203
保険差益	7,009	-
その他	2,761	3,525
営業外収益合計	19,063	13,018
営業外費用		
支払利息	2,845	3,077
その他	368	317
営業外費用合計	3,213	3,395
経常損失()	8,388	32,674
特別損失		
固定資産除却損	-	1,743
原状回復費用	-	4,836
倉庫移転費用	-	1,260
特別損失合計	-	7,839
税引前四半期純損失()	8,388	40,514
法人税、住民税及び事業税	7,241	6,470
法人税等合計	7,241	6,470
四半期純損失()	15,630	46,984

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年12月31日)
投資その他の資産	11,812千円	11,812千円

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

なお、のれんの償却額は該当がありません。

	前第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
減価償却費	95,181千円	63,773千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	47,308	10.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	47,308	10.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	ビジネスフォー ム事業	情報処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,368,089	847,987	2,216,077		2,216,077
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	1,368,089	847,987	2,216,077		2,216,077
セグメント利益又は損失()	185,490	65,598	251,089	275,328	24,238

(注)1. 「調整額」の区分は全社費用を記載しております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っています。

当第3四半期累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	ビジネスフォー ム事業	情報処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,449,160	672,436	2,121,597		2,121,597
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	1,449,160	672,436	2,121,597		2,121,597
セグメント利益又は損失()	183,606	51,307	234,914	277,212	42,297

(注)1. 「調整額」の区分は全社費用を記載しております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	3円30銭	9円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	15,630	46,984
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	15,630	46,984
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,730	4,730

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月 5日

カワセコンピュータサプライ株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 新 田 泰 生 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 許 仁 九 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカワセコンピュータサプライ株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第64期事業年度の第3四半期会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、カワセコンピュータサプライ株式会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。